

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

平成22年度関ブロ・第三分科会発表 土田孝一（新潟市豊栄地区公民館長）

4.5

- 2 トピックス 第61回新潟県公民館大会 兼 新潟県公民館連合会創立60周年記念式典開催
- 3 視点 学校と地域等との連携を考える
- 3 ひろば 子猫の春
- 6 実践記録シリーズ 自分でゆかたを着てみよう
- 7 サークル交流 地域イベントに積極的に参加（上越市）／皆が楽しく学び合う手話サークル（見附市）
- 7 素顔拝見 柳 昌光さん（十日町市）／田村久美子さん（関川村）



「小千谷縮・越後上布」（小千谷市・南魚沼市）
 国指定重要無形文化財（1955年5月登録）
 ユネスコ世界無形文化遺産（2009年9月登録）

表紙解説（越後上布「雪晒し」）

ユネスコ無形文化遺産は、伝統芸能や工芸技術、民族習慣などに対し、世界共通の遺産として保護するためリスト化しているものです。日本からの登録は16件ですが、染織部門では日本最初の登録となります。「小千谷縮・越後上布」が郷土の誇りとして、日本だけでなく世界から認められました。

第61回新潟県公民館大会 兼 新潟県公民館連合会創立60周年記念式典開催

第61回新潟県公民館大会兼新潟県公民館創立60周年記念式典が、7月16日(金)新潟市北地区文化会館を会場に開催されました。

参加者は453人で、暑い中、県内各地から参集しました。

開会式・創立60周年記念式典では、公民館活動に功労のあった方々に県知事表彰と公民館連合会表彰がありました。

*知事表彰

個人 本保敦子 (粟島浦村公民館)
団体 下越地区公民館連絡協議会

*公民館連合会表彰

竹内みよ子 (岩室公民館)
若林佳津子 (上越市立公民館)
宮田 学 (湯沢町公民館)
寺田 ユリ (五泉市公民館)
松本 典久 (見附市中央公民館)
堀 昭一 (見附市中央公民館)
山田 恵鈴 (見附市中央公民館)
小師さち子 (見附市中央公民館)

(敬称略)

午前中は吉田博彦氏の記念講演。昼休み後の地元・豊栄のアトラクション「ざりがち唄」をはさんで、午後はパネルディスカッションが行われ、それぞれ、これからの公民館活動に向けて意義ある提言がなされました。

(開会式・式典会場)



(記念講演 吉田博彦氏)



(パネラー 郷氏)



大会・記念式典の詳細については次号9月号の特集コーナーで紹介いたします。

お知らせ

「21世紀を考える全国青少年体験活動シンポジウム新潟大会」

◇と き：9月18日(土) 20日(月)

◇と ころ：新潟市万代市民会館 他

◇講演講師：迫 一成 (ヒッコリースリートラベラーズ)

◇分科会

①いっしょにロケットを飛ばしませんか

②新潟まち歩きクエストin 町

③川を下って海を目指せ

④キラキラ私の笑顔リレーin 内野

⑤Welcome新潟

⑥DOKI★WAKU

他イベント多数

◇問い合わせ：新潟市万代市民会館青年の家

Tel.025 (246) 7711

視点

学校と地域等との連携を考える

新潟市立横越中学校長 板垣 徳衛



横越地区は、平成の大合併により、中蒲原郡横越町から新潟市江南区となった。昔からの純農村地帯と国道49号線沿線の新興住宅地等から成り、学校と地域の結びつきは深い。

子どもを地域全体ではなくむために、学校と地域等が連携を深めることは大切なことであると考えている。

今のところ相互の連携活動は、次の通りである。

(1) 学校からの支援活動

- ・チューリップフェスティバル、公民館開館記念イベント、横越商工会大祭等での吹奏楽演奏



(2) 地域からの支援活動

- ・横越地区地下道清掃、社会福祉施設「のぎく祭り」へのボランティア参加
- ・地域からの支援活動
- ・総合学習、職場体験活動での指導
- ・交通安全指導員、セーフティスタッフによる見守り

今後は、学校に地域教育コーディネーターを導入したり、新しくオープンした横越地区公民館との連絡を密にするなど、連携等のための組織や仕組みをつくる必要があると考えている。

HOT NEWS

掲 示 板

平成22年度 下越地区公民館関係役員等研修会 兼 下越地区社会教育研究集会

研究主題：「社会の変化に対応する生涯学習・社会教育の創造」
～学びの成果を適切に生かすことのできる社会の実現をめざして～

- 大会趣旨 下越地区社会教育委員及び公民館関係役員等、社会教育関係者が一堂に会し、現代の地域社会における社会教育の課題等について情報交換するとともに、研究主題に沿って研究協議することを通し、参加者の資質向上及び各市町村の生涯学習・社会教育の振興を図る。
- 主催 下越地区公民館連絡協議会 下越地区社会教育委員連絡協議会
- 共催 新潟県教育委員会
- 後援 新潟県公民館連合会 新潟県社会教育委員連絡協議会 五泉市教育委員会 阿賀町教育委員会
- 主管 五泉市公民館 阿賀町公民館 五泉市社会教育委員会 阿賀町社会教育委員
- 期日 平成22年9月28日(火)
- 会場 五泉市「さくら人ど会館」
住所：五泉市村松乙118-2 (TEL: 0250-58-1133)
- 参加対象者 下越地区公民館関係役員 下越地区各市町村社会教育委員 社会教育・社会体育・学校教育関係者 等
- 日程

9:30	10:00	10:20	10:30	12:00	13:00		15:30	16:00
受付	開会式	休憩	講演	昼食移動		分科会		閉会式

- 開会式 式挨拶 下越地区公民館連絡協議会会長 伊藤 英策
挨拶 下越教育事務所長 遠藤 友春 様
祝辞 五泉市長 伊藤 勝美 様
歓迎の挨拶
- 講演 演題：「地域づくりは人づくりー生涯学習・社会教育の重要性ー」
講師：高崎経済大学副学長(地域政策学部教授) 大宮 登 様
- 分科会 下越地区公民館連絡協議会ー3分科会、
・第1分科会：高齢者の生きがい
・第2分科会：成人教育
・第3分科会：子育て支援
下越地区社会教育委員連絡協議会ー2分科会
・第1分科会：地域ぐるみの子どもの育成
・第2分科会：学びの成果の社会還元
以上5分科会で話題提供、事例発表を行う。
- 照会先
= 主管事務局 =
五泉市教育委員会生涯学習課 (担当：村瀬明明)
TEL: 0250-42-5191 FAX: 0250-43-4190
阿賀町教育委員会津川分館 (担当：西川利之)
TEL: 0254-92-3750 FAX: 0254-94-1052
= 下公連・下社連事務局 =
下越地区公民館連絡協議会事務局(下越教育事務所社会教育課 武石 由紀)
下越地区社会教育委員連絡協議会事務局(下越教育事務所社会教育課 早山 政信)
TEL: 025-231-8361 FAX: 025-231-1611

子猫の春

ひろば

新潟市南区公民館運営審議会委員(副議長) 関根 省三

春のまだ浅いころ、近所の猫が四匹子を産み、淡い陽ざしの中で母乳を与えていました。

「うむ。これはおもしろい」と、しばらく眺めていると、母猫は私に気づき、私をじいっと見てました。鋭い眼です。子猫たちは、眼を閉じ、小さな口で母乳を吸っています。

「うむ。これはおもしろい」と、しばらく眺めていると、母猫は私に気づき、私をじいっと見てました。

どうやらこの「ドラ猫」親子も小春日和が嬉しいとみえて、のんびりと日向ぼっこを楽しんでいる様子。

季節の移り変わりは速く、もう暑い夏です。子猫たちには新しい試練が始まります。



ふだん「ドラ猫」として、近所の皆さんから嫌われている彼らですが、何かこの景色はほのぼのとした情愛を感じさせました。

今では子猫も成長し、野性味を見せますが、それでも母猫と行動をともにして、甘えたりして身を寄せたりもしています。

新潟の冬は季節風で明け



口・第三分科会発表

平成22年8月20日(金)静岡市

の向上に関する研究セミナー」への参加

- ③ 新潟県生涯学習推進センター主催の「基礎研修会」、「リーダー研修会」、「若者が育つ地域づくり研修会」等への参加があげられます。

3. 公民館職員の専門性についての問題点

元来、公民館職員の専門性については、社会教育主事の資格を有するだけでなく、実際の公民館事業を実践した経験や地域の人との人間関係の中から培われる部分が大いなものと思われます。館長を除く非常勤嘱託職員は、社会教育主事の有資格者か社会教育施設での1年以上の経験者であることを条件に公募されます。公民館勤務の職員として採用されるため、事業に対する意欲も強く、採用が教育委員会のためその専門性は確保されるものと思われます。

しかし、正規職員は一般的に4年から5年で異動するため、各種研修会や講習会の成果や今までの経験の蓄積、地域の人との人間関係の実績が思うように生かされていません。人事権が市長部局にあるため、有能な職員が社会教育現場から切り離されていくわけで、非効率的で問題があることだと思います。

人事当局も平成22年度から各業務の分野で、重要課題に対応する専門性の高い職員を育成するため、経験10年以上の職員を対象に、希望する専門分野を登録し、その分野を基本としたキャリア開発を重視した人事制度を導入することになりました。採用間もない職員が公民館を経験し、10年後、公民館事業(社会教育分野)を専門分野として登録することにより公民館職員の専門性が確保されることを期待したいと思います。

○当市の公民館職員の平均経験年数(平成22年5月1日現在)

職員全体 4.5年

(正規職員4.7年 嘱託職員3.8年)

5年以上職員 29.8%

(正規職員32% 嘱託職員25.4%)

10年以上職員 15.2%

(正規職員15% 嘱託職員15.6%)

4. 公民館マニフェストについて

1で述べたように、「新しい公共」実現のための具体的な取り組みが必要とされる中で、公民館の持つ、地域づくり、地域の活性化のための機能、ノウハウに大きな期待が寄せられています。

しかし、一方3で述べたように、公民館職員の構成、職員の専門性や経験実態が大きく変化してきている状況があり、公民館職員が期待通りの活躍ができるかどうか、まさにこれからが正念場であるとの認識を強めています。

そこで、こうした状況を踏まえて、まず、公民館職員の意識改革が必要であるとの考え方に立ち、(仮称)「公民館マニフェスト」を作成し、発信し、合わせて、従来から公民館が担ってきた「地域づくり、まちづくり」の力を発揮できる体制を再構築していきたいと考えています。手始めに市内を3つの地区に分け、それぞれ専任講師を招き、地域に合わせたコミュニティ活性化事業について、年間を通じた相互研修の中から作り込んでいくという手法で、今年度の職員研修を進めていきたいと考えています。



特集



新潟県新潟市豊栄地区
公民館長
土田 孝一

公民館職員の専門性について(新潟市の場合)

1. 新潟市の現状について

新潟市は、平成17年10月までに近隣14市町村を
広域合併し、2年後平成19年4月に本州日本海側
で初の人口181万人を擁する政令指定都市「新・新
潟市」が誕生しました。

新・新潟市総合計画では、5つの都市像を掲げ
ていきましたか、現在は整理され、「日本海拠点都市」
「田園文化都市」の2つの都市像を目指していま

す。

また、当市では、行政運営や公共サービスにあ
り方を見直した「行政改革フーズ2010」を作成し、
その重点改革項目の一つとして「新しい公共の構
築」が掲げられています。複雑、高度化する市民
ニーズや環境変化に対応するため、各地域のコ
ミュニティ協議会、NPO、社会福祉協議会、公
益法人、民間事業者等と行政が、相互の立場を尊
重したパートナーシップを形成し、公共サービス
供給の新たな枠組みを構築しようとするもので
す。

その具体的な取り組みの一つとして、市の出張
所、連絡所、公民館等の再編により「まちづくり
センター」を設置し、地域コミュニティ協議会を
強化しようとしています。現在、新潟市には97の
コミュニティ協議会が活動していますが、大半の
協議会は何らかの支援を必要としています。行政
からの財政的支援はあるものの、活動拠点の確保、

自主財源の確保、事務局員の確保等の課題が残さ
そうしたコミュニティ協議会の活動拠点の中核と
して考えられています。

2. 新潟市の公民館の現状と取り組みについて

現在新潟市には、8つの基幹公民館、16の地区
公民館、37の分館があります。各館には、館長が
25名(正規職員12名、嘱託職員13名)、館長以外
の職員が126名(正規職員88名、嘱託職員38名)、
合計151名(正規職員100名、嘱託職員51名)の職
員が配置されています。

新潟市の公民館事業については、「新潟市教育
ビジョン」後期実施計画(平成22年度から平成26
年度)に掲げられている基本目標や基本施策を基
に4つの基本方針を作成しました。

- ① 地域主体のコミュニティづくりと地域を支え
る人材育成・団体育成
- ② 生涯学習社会の実現を目指した地域づくり
- ③ 学・社・民の融合による地域教育力の向上
- ④ 家庭教育の支援

これらの基本方針を受けて、各公民館ではそれ
ぞれの地域の実情にあった事業を計画、実施して
います。

- また、新潟市では、公民館職員の資質の向上や
交流を目的に研修委員会を組織しています。平成
21年度の研修委員会の取り組みとしては、
- ① 研修委員会主催の新任職員を対象とした「新
任職員研修会(基本編・実践編)」や一般職員
を対象とした「事業評価研修会」等の開催
- ② 国立教育政策研究所社会教育実践研究セ
ンター主催の「実践研究交流会」や「地域教育力

平成22年度関フ

実践記録

149

シリーズ

「自分でゆかたを着てみよう」

新潟市立坂井東小学校 地域教育コーディネーター 郷 扶二子

事業を行うきっかけ

伝統文化を伝える会の先生の思いと子どもたちに日本の伝統文化を伝えたいという子どもふれあいスクールのスタッフの思いが一致したことです。

事業のねらい

子どもたちに日本の伝統文化を伝えていきたい。
身近に興味を持てる「着物の文化」を知ってほしい。
日本古来から大切にしているマナーを身に付け、日常生活の中で生かしてほしい。

活動紹介

月に2回土曜日の「坂井東小学校子どもふれあいスクール（通称わくわくランド）」の活動時間の中で

1. ゆかたの着付け教室を行いました。
2. 着ることだけではなく「着物の文化」を知ってもらう学習を行いました。
3. ゆかたを着てのたち振る舞いを体験してもらいました。

ゆかたを着て室内遊びをしました。

ゆかたを着て地域の民謡を踊る練習をしました。

ゆかたを着て七夕祭りを行いました。（笹飾り、白玉団子とお茶のおもてなし）



こんな苦労がありました

*わくわくランドは坂井東小学校の子どもはだれでも参加できる場所なので、参加する子どもたちがいつも同じ子どもではなく、カリキュラムを組んでの指導が難しかったです。

この点が伝統文化を伝える会の先生の思いとの

ギャップになりました。>

地域への周知・広報の方法

- ・「わくわくランド通信」や学校のHPを使用しました。
- ・参加した子どもたちや保護者・スタッフの口コミの力が大きかったです。

ネットワーク

- ・連携の相手先は・・・「装道礼法親子教室」
- ・指導者やボランティアの確保は・・・
指導者 装道礼法親子教室の講師
ボランティア わくわくランドのスタッフ
- ・地域のネットワークは・・・
中学校にも案内を出し中学生も参加しました。

成果

- ・地域の夏祭りにゆかた姿の子どもが増え、地域の方々に喜ばれました。
- ・地域の夏祭りへの子どもの参加者が増え盛り上がりました。
- ・子どもたちが茶道という伝統文化に興味をもち公民館で行われる茶道体験教室に参加する子どもが増えました。
- ・日常のあいさつ、ことば遣いがやさしくなりました。
- ・地域の方はこの活動が行われていることを知り、家の中に眠っている「ゆかた」や「ウールの着物」「帯」「ゆかた地」などを学校に持って来てくださり、リサイクルと学校でのコミュニケーションが広がりました。

これからの課題と展望

昨年度は後期に「親子で伝統文化を学ぼう！」という文科省の委託を受けての事業に拡大する計画を立て、着物だけではなく、茶道、立ち振る舞い、伝統行事など広く子どもと親が学べる場を計画しました。しかし、インフルエンザの流行に伴い開催できなくなり、残念ながら中止になりました。今年度は文科省の委託事業はなくなるので、地域のボランティアの方々の力を借りながら、子どもたちが伝統文化に触れることのできる機会を作っていきたいと思っています。

平成22年度公民館関係研修・研究セミナー

I 社会教育研修事業

文部科学省と国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが共催で実施
主として社会教育専門職員に対する上級段階の研修

Table with 5 columns: 講座等名, 対象, 趣旨, 定員, 開催時期及び期間. Includes '社会教育専門講座' and 'メディア教育指導者講座'.

II 研究セミナー (国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが主催する研究セミナー)

Table with 5 columns: 事業名, 対象, 趣旨, 定員, 開催時期及び期間. Includes '社会教育計画の立案と評価に関する研究セミナー' and 'ボランティア活動推進研究セミナー'.

III 研究交流会 (国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが主催する研究交流会)

Table with 5 columns: 事業名, 対象, 趣旨, 定員, 開催時期及び期間. Includes '生涯学習関係機関の連携に関する実践研究交流会'.

Net work ネットワーク

文部科学省事業「公民館海援隊」プロジェクトに新潟市北地区公民館が参加

「公民館海援隊」プロジェクト

1. 趣旨

従来、公民館では、地域住民の教養の向上、健康の増進などを図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与してきましたが、社会の変化に伴う地域的課題の多様化(子育て、高齢者問題など)、長引く不況による雇用状況の悪化、また、社会教育費の減少に伴う専任職員の減少など、公民館を取り巻く状況は厳しくなっています。

そのような中、子育て・家庭教育支援、少子・高齢化問題支援、環境問題支援、就業ビジネス支援など、地域の課題解決支援を積極的に行う有志の公民館が「公民館海援隊」を結成しました。今後、各地域の課題やその解決支援に向けた取組について、情報を共有し社会的ネットワークの構築を図り、公民館活動を活性化していきます。

文部科学省では、そのような取組について広く全国に公表するとともに、公民館を拠点とする「新しい公共」の実現を目指します。

2. 活動支援の例

- ・子育て・家庭教育支援
・地域の人材の活用、仲間づくりのための交流支援
・だがしや染校を活用した世代間交流やコミュニティづくり
・社会起業をテーマにした協働の関係構築力や発信力支援
・関係団体・機関と連携した青少年自立支援プログラムの実施
・高齢者の自立・福祉支援
・子ども安心・安全居場所づくり支援
・在住外国人と文化交流支援
・地域の人材、歴史及び文化継承するためのボランティア団体による映画づくり
・ボランティアグループによる育児、観光、環境、防災、ICT等活動支援
・公民館と学校・大学との連携促進事業の実施

3. 「公民館海援隊」参加公民館 (平成22年5月18日)

新潟市北地区公民館外20館が参加

新潟県新潟市北地区公民館 (025-387-1761)

主な取組内容

- ・阿賀野 RIVER 龍神祭「交流から地域創造」をテーマにした地域活性化事業。濁川区コミュニティ協議会と連携し、濁川地区の高い社会関係資本をベースに、地区のブランド形成を目指したイベント。かつ、コミュニティアートを導入し、濁川地区の文化発信を目指す。
・虹の架け橋語学講座&交流事業：国際港湾である新潟東港を控えた南浜地区。この地区の安心・安全の確保と国際交流地域を目指し、ロシア語、韓国語、中国語講座を展開しながら、講座生、在住外国人、南浜地区住民による交流会を実施。なお、交流事業は南浜地区コミュニティ協議会との共催事業。
・コミュニティ・カレッジ：当公民館が所管する3地区のコミュニティ協議会と共催し、コミュニティ政策等を学ぶ地域づくり講座。
・北地区ネットワーク会議：当館が所管する地区の主な17の地域づくり団体が構成員となり、地域の情報交換と地域づくりの研修及び研究の実施。

4. 共催

全国公民館連合会

5. 情報の更新

「公民館海援隊」の活動状況については、文部科学省ウェブサイトの以下のページで、随時更新する予定。

http://www.mext.go.jp/a_menu/01_l.htm

あとがき

道路ふれあい月間

毎年8月は「道路ふれあい月間」です。
私たちの生活に欠かすことのできない「道」について考え、安全で快適な社会生活環境実現していきます。

新潟県道路整備協会
会長 (田上町長) 佐藤 邦 義
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつづやき
今年の関プロ大会は8月19日(日)に静岡で開催されます。新潟県からは1520名の参加が予定されています。分科会では、

新潟県豊後地区公民館長の土田孝一氏が「公民館職員」のあり方と専門性をテーマに発表します。新潟市は昨年「公民館改革」を取り組んでおり、その内容を触れながら発表の要旨を発表し、8月19日に特集記事で紹介しました。また、3年後の平成25年の夏には新潟県で関プロ大会が開催されます。開催日程等を逆算すると、今秋には開催準備委員会を設け、大会の概要を決める作業に入らなければなりません。60周年が終わったばかりなのに、今度は関プロで思つたばかりなどという声が多く聞かれます。聞き取れない声は、聞き取れない声です。聞き取れない声は、聞き取れない声です。聞き取れない声は、聞き取れない声です。